

債務帳消しニュース

2005年12月

キャンペーンの背景

世界の最も貧しくさせられた国々は大きな債務を持っています。一つの債務は銀行に。もう一つは豊かな国々に。そして国際通貨基金と世界銀行に対しての債務です。この多くの国々は年間予算の50%も債務返済に当てる必要があった為、福祉、教育、健康などの予算は全く足りない状況でした。

この債務を帳消しするキャンペーンが始まって10年以上になります。銀行はほとんど帳消ししました。豊かな国々もある程度帳消ししました。貧しくさせられた国々が条件を満たせば全額も帳消しすると言っています。しかし、この条件は厳しく酷い条件です。貧しい国々の国営機関を豊かな国々の会社に売ったり、教育費や福祉費を削ったりするなどの条件です。今までは豊かな国々が債務をうまく利用して貧しくさせられた国々を搾取してきましたが、債務を帳消ししたら今度は貧しくさせられた国々の経済を支配しようと思っています。

豊かな国々が貧しい国々をわざと搾取したり、抑圧したり、支配したりすることは信じにくいかも知りません。私たちの親、兄弟、親戚、友達、同級生である政治家や官僚や会社員がわざと世界の最も貧しい人々を苦しめたりして?!しかしながら、事実です。貧しい人々が貧しいでのない怠け者である為ではないです。神様が定めた訳でもないです。私たち(の国々)が搾取しているのです。

去年ジョン・パーキンス(John Perkins)さんが Confessions of an Economic Hitman (経済的殺し屋の告白?) という本を書きました。アメリカがある貧しい国の資源(例えば石油)を狙った時に、パーキンスさんがその国の政府にこう勧めました。「アメリカからお金を借りて港、発電所、道路などを建設すれば、近いうちに発展して豊かになります。そして借金を返済できます。」発展の早さと程度についてわざと嘘をついたと書いています。

貧しい国が借りて、港、発電所、道路などを建設してもなかなか発展できませんでした。返済できませんでした。できなくなったらアメリカは貧しい国に、「返済できないため、その代わりに石油を安く売ってくれ。」実は発展しないこと、返済できないことをアメリカは知っていました。返済できない状態はアメリカの望みだったと書いています。目的は債務を利用して貧しい国を支配することです。貧しい国の大統領がアメリカの勧めることを拒否したら、大統領を暗殺したり、海兵隊を派遣して大統領を倒すこともありえると。今アメリカはベネズエラの大統領を倒そうとしているのではと書かれています。

日本語版は来年販売する予定です。(東洋経済 佐藤友保さん (03) 3246-5634)

今年のニュース

今年も債務帳消しが G8 サミットの議題に入りました。そして G8 のリーダー達はもっと帳消しすると言っていましたので帳消しを呼びかける私たちは期待していました。(ほっとけない 世界のまずしさというキャンペーンを聞いたかも知れません。

<http://hottokenai.jp/index.html>)

今年も私たちはがっかりしました。

しかし、9 月にいいニュースがありました。国際通貨基金と世界銀行は今まで帳消しできないと言っていましたでしたが初めて帳消しすると言いました。しかし、この帳消しは、18 国だけの債務です。しかも条件付きの帳消しです。18 国々が選ばれたのはその条件を既に満たしている為です。

それでこれから私たちは

- すべての貧しい国々 (少なくとも 60 カ国) の債務帳消しをもっと強く呼びかけなければなりません。
- 経済的条件を取り消すことも呼びかけなければなりません。

どうぞ宜しくお願い致します。

マッカーティン・ポール

P. S.

ご存知かも知れませんが、私は気候変動・温暖化も取り上げています。この間すばらしい話を聞きました。地球村の高木善之さんの講演会でした。皆さんに読んでいただきたいと思って纏めてお送りします。とても分かりやすい話です。講演会に出る機会があったら是非聞きに行ってください。